

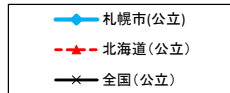
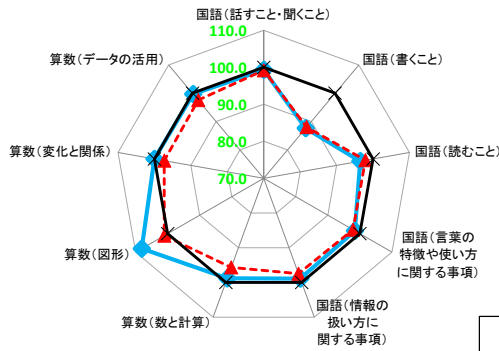
■札幌市内の状況及び「学ぶ力」の育成に向けた取組 (小学校数:199校、児童数:13641人)(中学校数:100校、生徒数:12781人)

【教科全体の状況】 教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

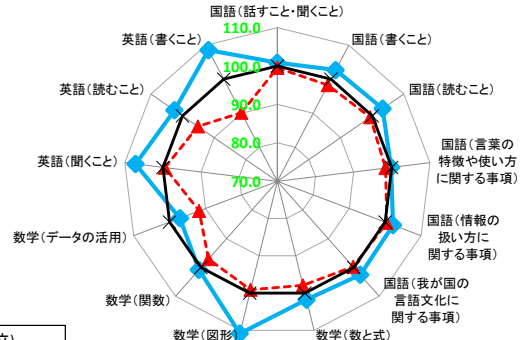
平均正答率(%)	小学校	中学校
国語	66(65.8)	71(71.2)
算数・数学	63(63.1)	52(51.9)
英語		48(48.1)

()内は、札幌市が独自に計算した値。

小学校

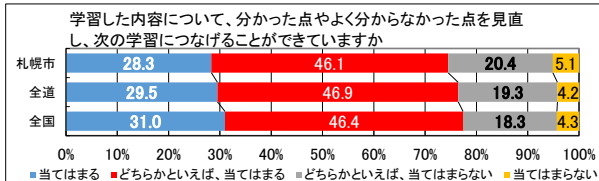
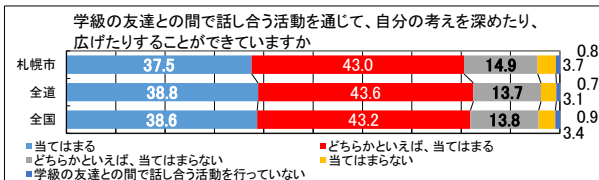
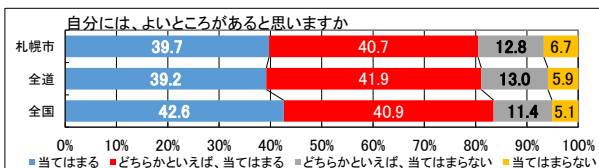


中学校

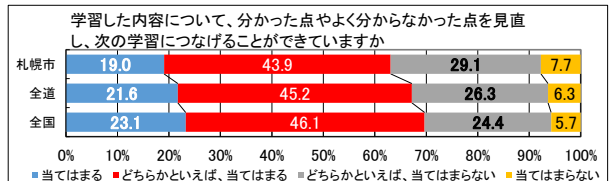
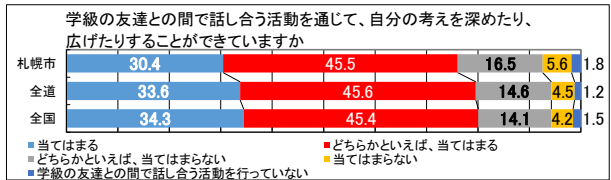
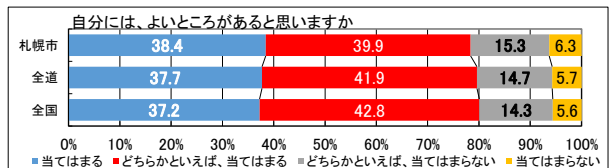


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

	小学校	中学校
教科	<p>国語は、全国平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや下回っている」</p> <p>算数は、全国平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」</p> <p>◆国語では、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、「複数の文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」などに課題。</p> <p>◇算数では、「面積の大小を判断し、その理由を説明すること」などに成果が見られ、「算数にこーごプロジェクト事業」において、数学的活動を通して論理的思考力が高まっていると考えられる。</p>	<p>国語、数学、英語のいずれも、全国平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」</p> <p>◆国語では、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」、「文脈に即して漢字を正しく書くこと」などに課題。</p> <p>◆数学では、「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明すること」などに課題。</p> <p>◇英語では、「情報を正確に聞き取ること」などに成果が見られ、小学校段階からのALTの配置により、子どもの聞く力の向上につながっていると考えられる。</p>
質問紙	<p>⇒自分の考えをまとめる活動を通して、子ども一人一人が自らの学びを関連付けたり、自らの変容を振り返ったりする機会を、より一層充実させる必要がある。</p> <p>「自分にはよいところがあると思う」子どもの割合は、小中学校ともに昨年度と比べて上昇しており、各学校において、札幌市学校教育の重点の基盤である「人間尊重の教育」を推進してきた成果が表れている。</p> <p>他者と対話することの価値を実感する子どもが増えてきているものの、その対話によって深い学びにつなげていく必要がある。</p>	

【札幌市の「学ぶ力」の育成に向けた取組】

- ◎ 引き続き「課題探究的な学習」と「さっぼろっ子自治的な活動」を二本柱として「人間尊重の教育」を推進していく。
 - ◎ 「小中一貫した教育」のパートナー校において、1人1台端末を活用した9年間の学びのつながりを確立していく。
 - ◎ 子どもにとって一つ一つの学びがつながり、積み上がっていくよう、これまで実践してきた課題探究的な学習をAARサイクル(※)という視点から捉え直し、推進していく。
- ※Anticipation(見通し)、Action(行動)、Reflection(振り返り)からなる反復的な学習プロセス(OECDラーニングコンパス2030より)

【Webページ】

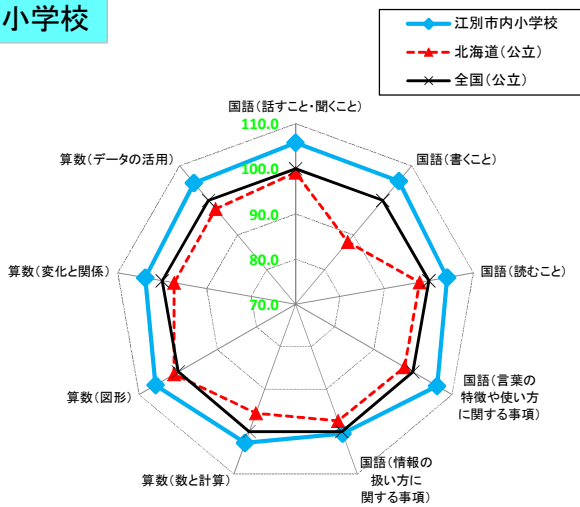


■ 江別市内の状況及び学力向上策 (小学校数:17校、児童数:922人) (中学校数:8校、生徒数:846人)

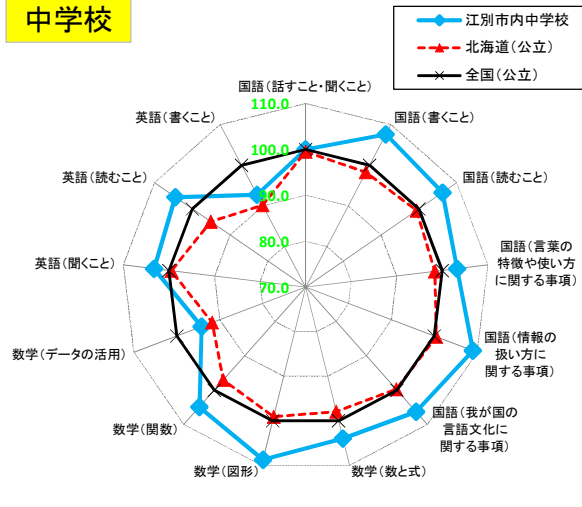
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校



中学校

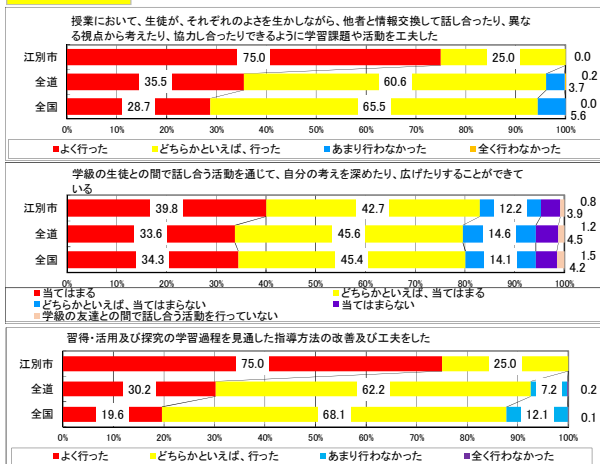


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけるなど、授業改善を進めたことにより、国語の全ての領域及び事項、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫するなど、授業改善を進めたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、国語の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【江別市の学力向上策】

- ◎ 各小・中学校における確かな学力の育成に向けた学習サポート教員及び学習ボランティア等、専門スタッフの配置促進
- ◎ 「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実を図るICTの効果的な活用
- ◎ 学校・家庭・地域で「目指す子ども像」の共有を図り、系統性と一貫性をもった小中一貫教育の推進

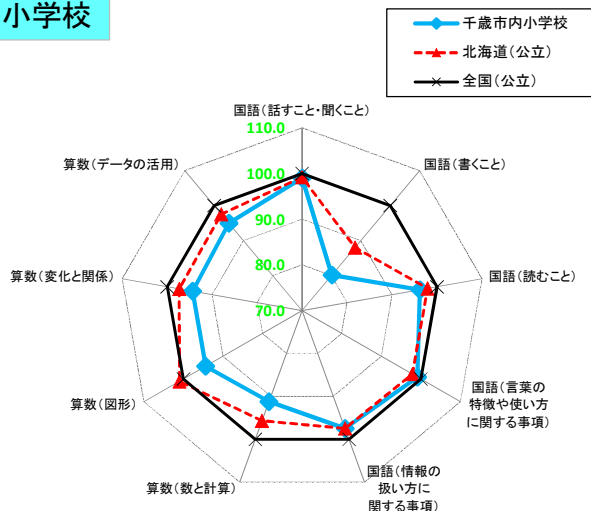
■千歳市内の状況及び学力向上策（小学校数:17校、児童数:837人）（中学校数:8校、生徒数:783人）

【教科全体の状況】

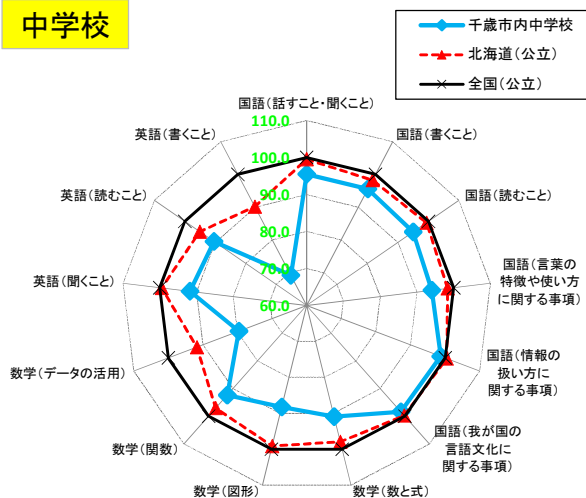
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	67
算数・数学	58	45
英語		40

小学校

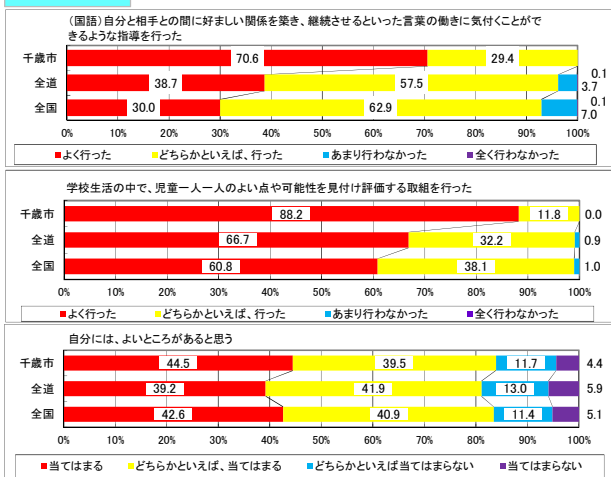


中学校

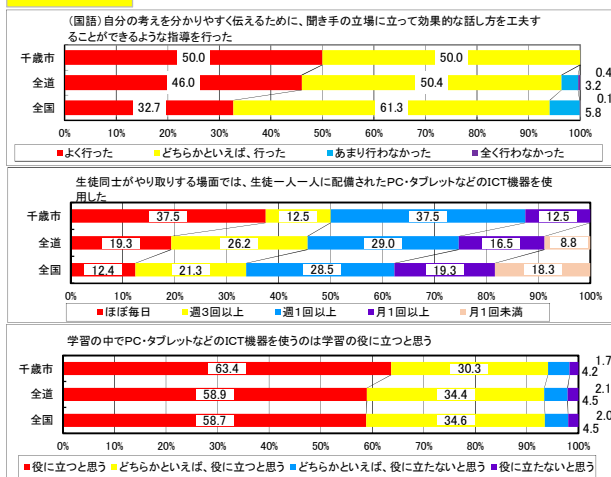


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、国語の「言葉の特徴や使いに関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を積極的に行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えを分かりやすく相手に伝えるために、聞き手の立場に立って話し方を工夫することができるような指導を行うなど、授業改善を進めたことにより、国語の「情報の扱いに関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

生徒同士がやり取りする場面で、PC・タブレットなどのICT機器を活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【千歳市の学力向上策】

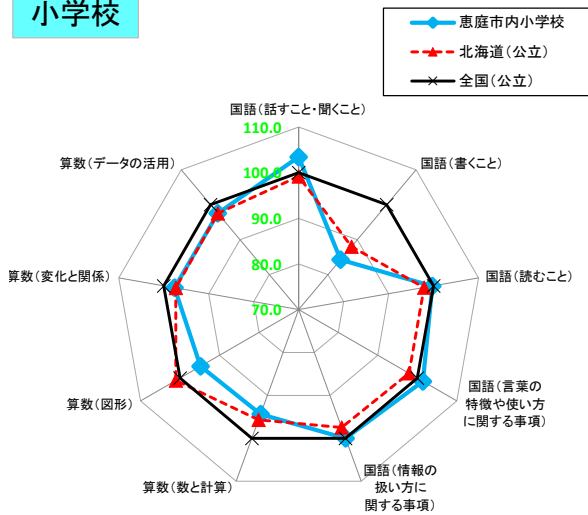
- ◎ 一人一人が考え、自身の考えを説明し互いに意見を交換する「探究型・対話型」の授業づくりの推進
- ◎ 授業改善の徹底及び検証や、学習支援員等による算数・数学科の習熟度別少人数指導の推進
- ◎ AI搭載型のデジタルドリルを導入し、授業や家庭学習において、学習者用コンピュータを有効に活用できる環境の整備

■ 恵庭市内の状況及び学力向上策 (小学校数:8校、児童数:565人) (中学校数:5校、生徒数:536人)

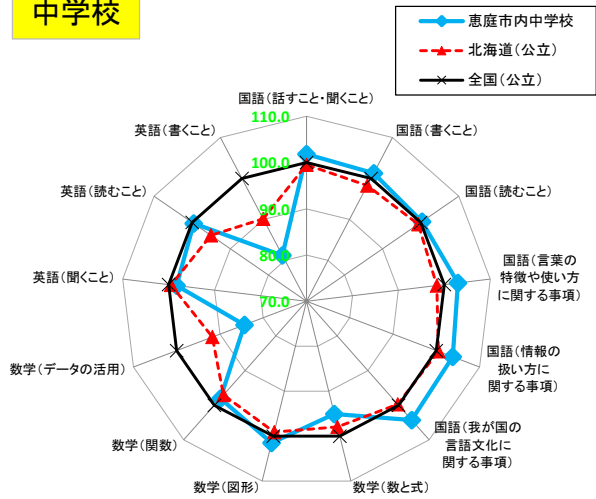
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

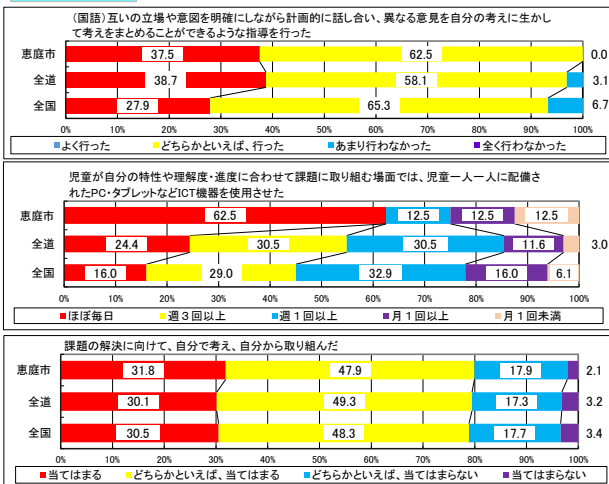


中学校

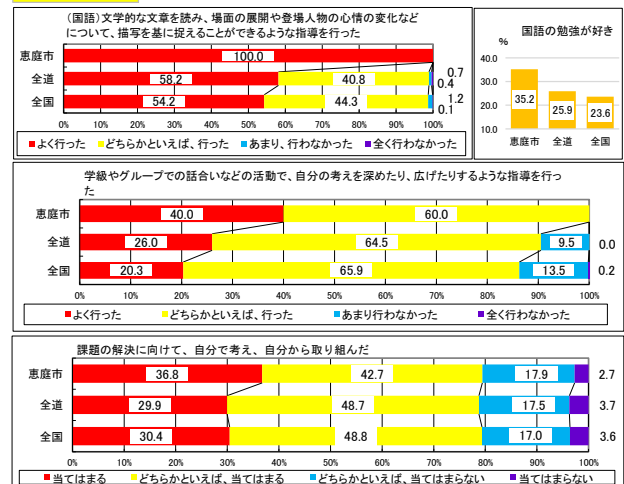


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしなが
ら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考
えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の
「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を
上回ったと考えられる。

児童が自分の特性や理解度・進度に合わせた課題に取り
組む場面において、児童一人一人に配備されたPC・タブレッ
トなどのICT機器を積極的に使用させるなど、授業改善を進めた
ことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取
組んだと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考
えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や
登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること
ができるような指導を行うなど、授業改善を図ったことにより、
国語の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を
上回るとともに、国語の全ての領域及び事項で平均正答率が
全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、学級やグループでの話し合いなどの活動
で、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導を行っ
たことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取
組んだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考
えられる。

【恵庭市の学力向上策】

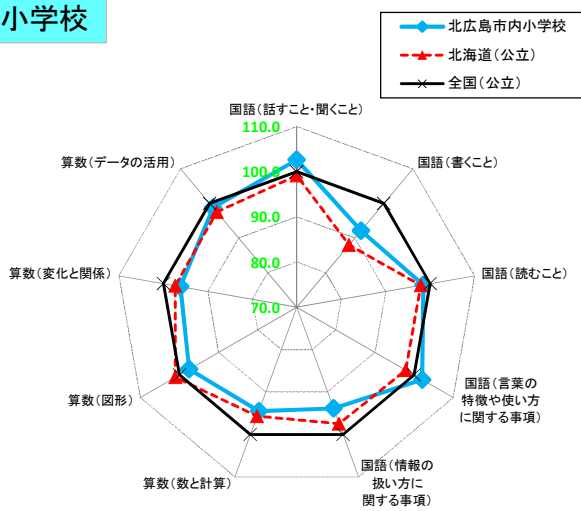
- ◎ ICT等を効果的に活用した学習指導の充実
- ◎ サマーセミナー、ウィンターセミナーなどの研修による教職員の資質向上
- ◎ 小・中学校の連携教育の充実に向けた、小中連携教育推進委員会の設置

■北広島市内の状況及び学力向上策（小学校数：8校、児童数：460人）（中学校数：7校、生徒数：435人）

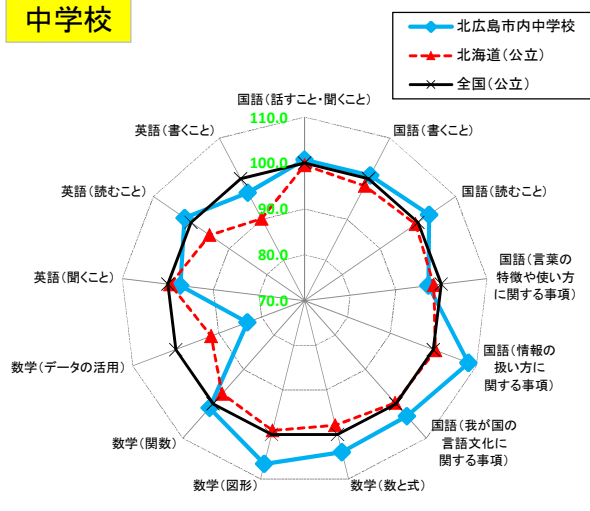
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

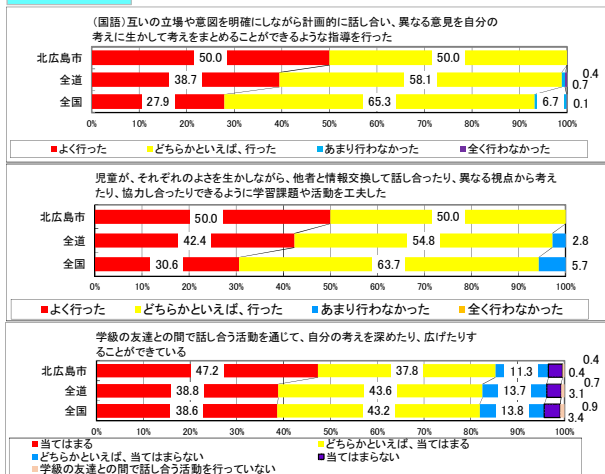


中学校

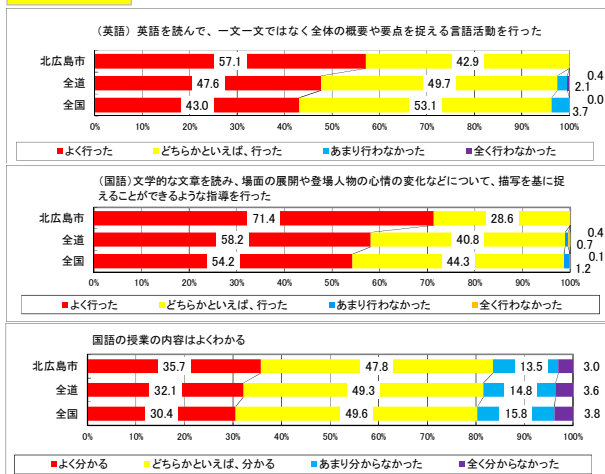


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

英語の授業において、英語を読んで、概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北広島市の学力向上策】

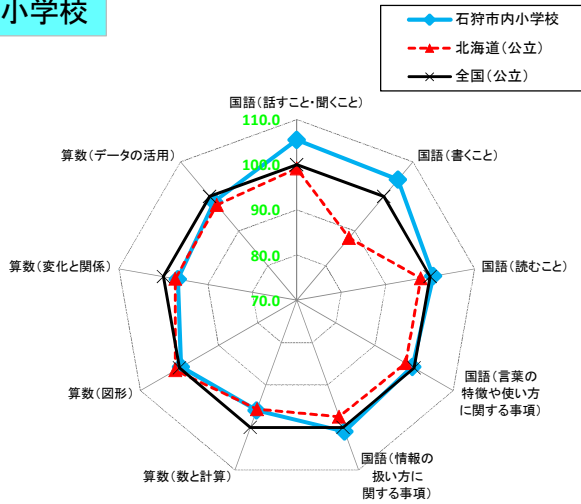
- ◎ 個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善や個に応じたきめ細やかな指導の充実
- ◎ 中学校区における指導計画の重点化、系統性のある指導の充実を図る小中一貫教育の推進
- ◎ 外国語教育の充実に向けた、外国語指導助手(ALT)の活用や対話を重視した授業への転換

■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:447人）（中学校数:7校、生徒数:482人）

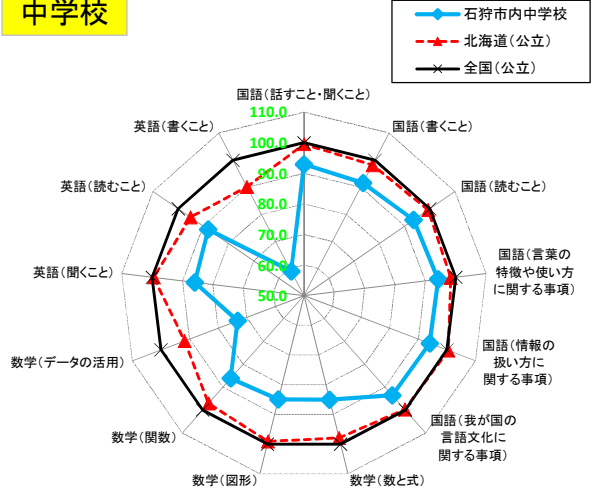
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

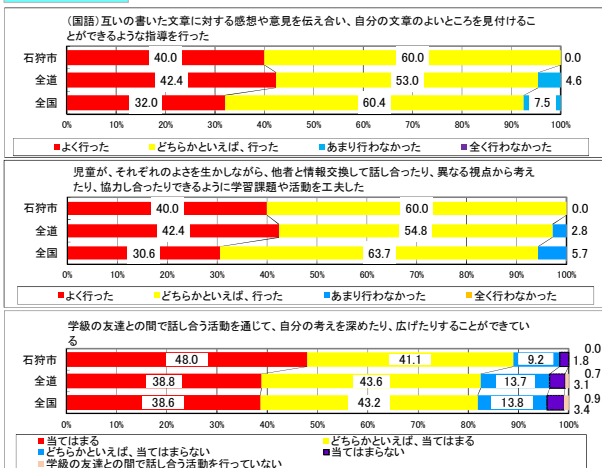


中学校

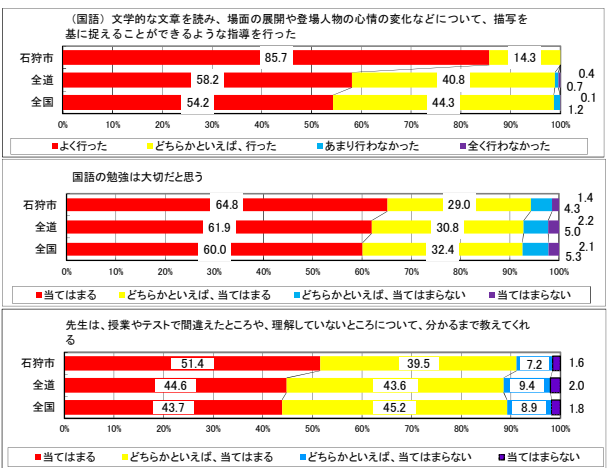


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、伸びしろ層・中間層・定着層の各層に応じた指導を充実させたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【石狩市の学力向上策】

- ◎ 国語科の「読むこと」の領域の課題解決に向けた取組の推進
- ◎ 教科指導における小中連携の推進
- ◎ 伸びしろ層・中間層・定着層の各層に応じた指導と対話重視の指導の充実

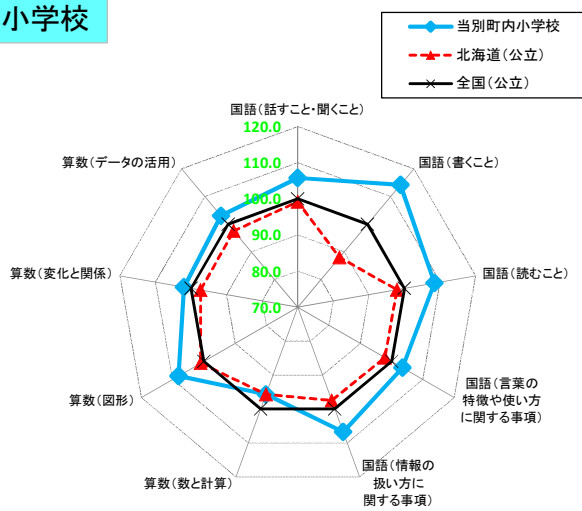
■当別町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:82人）（中学校数:2校、生徒数:100人）

【教科全体の状況】

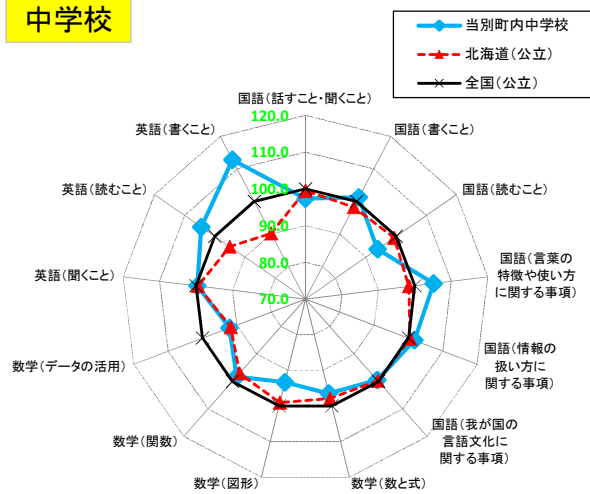
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	70
算数・数学	64	49
英語		47

小学校

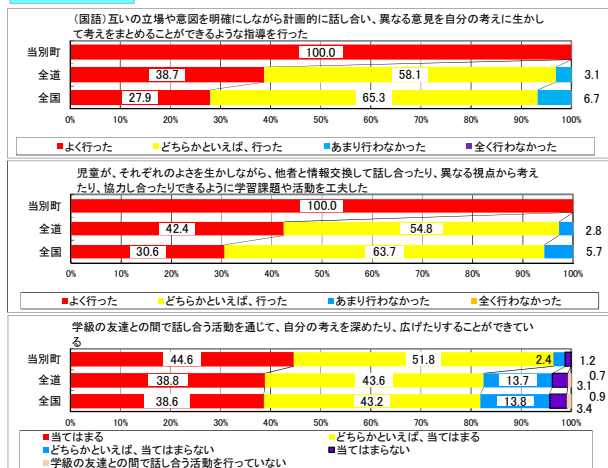


中学校

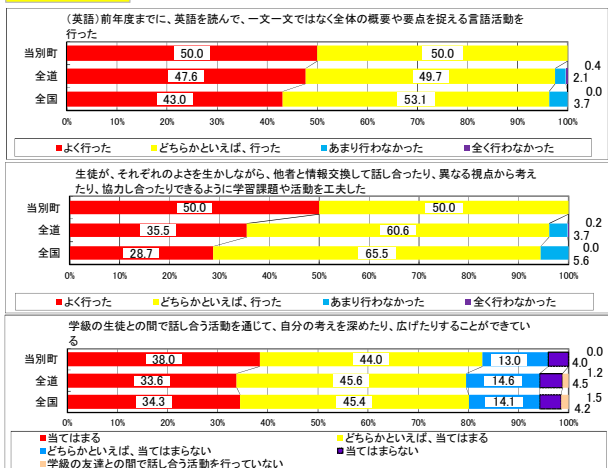


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

英語の授業において、英語を読んで、概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、英語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【当別町の学力向上策】

- ◎ 「対話」を重視し、全ての子どもに必要な資質・能力を身に付けさせる授業改革の推進
- ◎ 個別最適・協動的な学びの実現に向けたICTの効果的な活用 (ICT支援員の配置やAIドリルの活用)
- ◎ 学力向上推進講師や支援員 (町独自配置) を活用した「授業改革055！」の実現に向けた学習支援の充実
- ◎ 教職員の資質向上を図る研修の開催
- ◎ 「AIドリル」「学びのハンドブック」「家庭学習サポートブック」による家庭学習の支援

【Webページ】



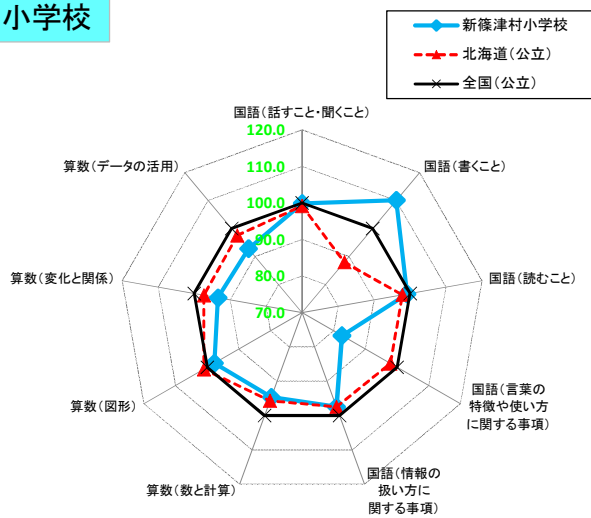
(R5.11掲載予定)

■新篠津村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

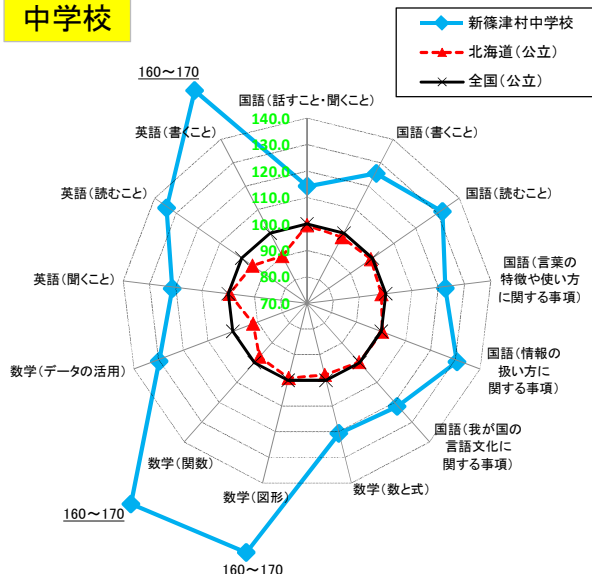
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

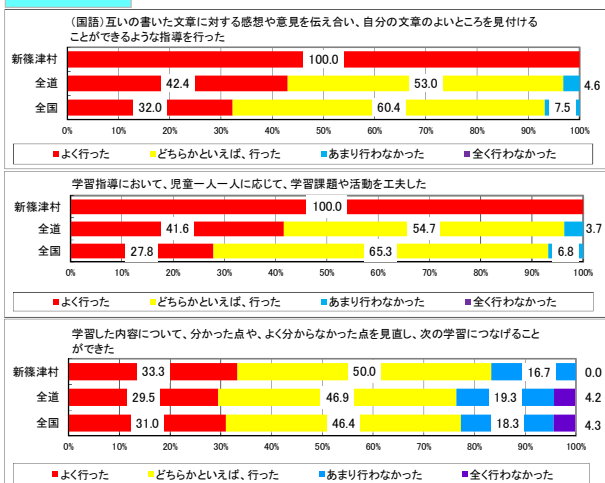


中学校

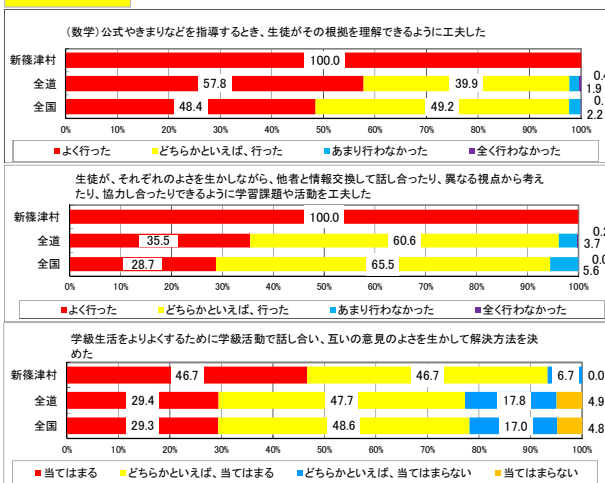


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような授業を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新篠津村の学力向上策】

- ◎ 教科担任制や乗り入れ授業を重視した小中一貫教育の推進・充実
- ◎ ICT教育の推進に向けた学習支援ドリルや新聞の検索・閲覧ができるシステムの導入
- ◎ 小・中学校への支援体制の充実に向けた学習支援員の配置